#土木の魅力発信, #担い手確保, #就業継続支援 建設業の元気を女性から!

にいがた土木女子会議

1. はじめに

こんにちは、「にいがた土木女子会議」です。 NDJと呼んでください。新潟県内の土木建設関連業務で働く女性みんながメンバーであるという考えのもと、土木の魅力発信や担い手確保に少しでもお役に立てたらいいな、という気持ちで平成29年6月にキックオフミーティングを開催し、発足しました。

NDIでは、大きく3つの柱で活動しています。

- ① 土木の魅力を PR
- ② 交流を深める
- ③ 働きやすい職場環境の検討 ここ1,2年はコロナ禍にあり、思うように活



写真-1 平成 29 年 6 月 NDJ 発足

動できていませんが、できることをできる範囲で、 楽しく活動しています(写真-1)。

2. 土木の魅力を PR

土木建設業の担い手確保が課題となって久しいですが、職業選択の一つに土木というものがあることを知ってもらうため、新潟県では中学生、高校生を対象にキャリア教育の一環で「土木出張PR」と題して、官民合同チームが学校の授業の時間をいただき、土木の魅力をPRしています。PRの合同チームは、測量、設計、施工の民間企業と、行政としての県が、それぞれの役割と魅力をプレゼンします。

出張 PR を始めたばかりの頃、ステージでプレゼンするメンバーを見ながら、何とも違和感を覚えました。各分野の各代表全員が男性なのです。聞いている学生は男女半々くらいなのにです。これでは、土木は男性だけの業界だと思われないか、女子学生には無関係な話に聞こえないか、閉鎖的で体力勝負の職場環境なのか。PR しているつもりが、逆効果なのではと危機感を覚えました。

この危機感,違和感が発端となり,担い手確保のため,土木のPRのため,女性が一肌脱ごうと思い立ち,一般社団法人新潟県建設業協会の女性部会と県の土木系女性職員との協力体制を築き,

「にいがた土木女子会議」の結成につながりました。

具体的には、土木出張 PR の中で、できるだけ 女性が説明員となることを申し合わせました。建 設業協会には地域ごとに支部があるので、県内各 地の中学校・高校から出張 PR の依頼がありますが、その地域の支部の女性役員が中心になってステージ上で説明をしています。行政側の説明についても、県の女性職員が説明することを基本にやりくりしてきました。年間 20 校以上で出張 PR を実施し、同じ地区での開催が続くこともあり、業務多忙時には苦労する場面もありますが、そこは多少の無理をしてでも、必ず女性が出掛けることを基本に頑張っているところです。

実施後のアンケートでは、「女性が活躍していてびっくりした」、「自分にもできそうだと感じた」など嬉しくなる記述があり、手応えを感じています。女性が活躍できるということは、男女関係なく、体力に自信のない男性でも、誰でも、活躍できるということです。まだ職業選択に固定観念を持っていない、頭の柔らかい中高生の皆さんの心に残る PR ができることが大切であると感じています(写真-2~4)。

この活動を紹介するホームページも作成しました。土木出張 PR を中心に、活動の様子をお知らせしています。ぜひ、http://ndj-kaigi.com/ にアクセスしてみてください(写真-5)。

今年度は動画を作成し、土木で働くかっこいい 女性の動画もホームページと YouTube で公開し ています(写真-6)。



写真-2 土木出張 PR でのプレゼン



写真-3 測量体験も楽しい時間



写真-4 出張 PR 最後にはドローンで記念撮影



写真-5 NDJのホームページ 検索してみて下さい









写真-6 現場で働くかっこいい女性たち

3. 交流を深める

NDJ 発足の必要性を感じたもう一つの理由は、女性同士の横のつながりを作ること。つなが

りを目に見える形にすべきであると考えたからです。

建設業で働く女性が増えつつあるとはいうものの、割合的にはまだまだ少数派です。一つの組織でみれば、同じ会社内で身近に相談できるような女性社員がいないといった孤独感を持ちながら仕事をしている女性は少なくありません。身近にロールモデルとなる存在がいないことは、自身のキャリア形成の見通しが描けず、将来に不安を感じます。場合によっては、それが原因で、転職、退職といった事態にもなります。

「他の会社の女性社員に会って話がしてみたい」、「これまでどのような経験を積んできたか、同じ業界で働く女性のいろんな話が聞いてみたい」そんなニーズに応えられるような、顔の見える交流の場を作り、横のつながりを強めたい。そんな思いもあってのNDJ発足なのです。同じ職場に仲間がいなくても、県内にはたくさんの仲間がいる。そう思うだけでも、仕事への意欲、モチベーションのアップにつながるのではないかと考えています。

NDJでは、コロナ禍以前は年に2回程度、100人規模の講演会・交流会を開催して、参加者同士の学びの場、交流の場を提供してきました。

対象は女性に限らず、誰もが参加できるものとし、また、地元大学および他団体との共催による講演会は、学生や若手が集まりやすい会となっており、これから就職を考える学生に向けての PR の場として、建設業界で働く女性の姿を身近に感じてもらえる良い機会となっています(写真 - 7)。



写真-7 コロナ禍以前は参加者との交流も有意義 な時間でした

ただ、この1、2年はコロナ禍ということもあり、大人数が一堂に会したイベントは企画できず、少人数、地域単位での現場見学会&意見交換会を実施しています。同じ地域で、同じ業界で働いている女性同士でも意外と顔を合わせる機会がなく、会に参加して初めて身近な女性の存在に気づいたという参加者が多くいました。お互いの存在を確認できただけでも開催した意義があったと感じています(写真-8、9)。



写真-8 バイパス工事の現場見学会(令和3年度)





写真-9 NEXCO リニューアル工事の現場見学会 (令和3年度)

4. 働きやすい職場環境の検討

活動の3つめの柱が、働きやすい職場環境の検討です。意見交換会は、少人数単位のワールドカフェ形式で意見交換する時間を設けています。「女性の活躍、定着促進のためには」をテーマに、各会場で毎回活発な意見交換をしていただいています。同じ悩みを共有できて安心したり、他社で実施している良い事例を聞いて勉強したり、あるいは、仕事を長く続けるためには、「夫教育は大切」という先輩の声に納得したり、仕事から家庭まで全方向での意見交換は、それだけでストレスの発散にもなります(写真-10、11)。

わが国では、いまだに女性が家族的責任の大部 分を担っている現状があります。女性が男性と全 く同じように働くことには、まだまだ課題が多い



写真-10 ワールドカフェ形式での意見交換会



写真-11 少人数で密度の濃い意見交換ができます

ことがアンケートや意見交換からも見てとれま す。一方、仕事にやりがいや誇りを持っており、 自信をつけるためにもスキルアップが欠かせない など、前向きな意見もとても多く寄せられます。

女性はいろいろな場面で"女性ならではの…" とか"女性の視点で…"と言われがちですが、そ のような枕詞にとても違和感を感じています。個 人としての個性を尊重してほしいと願っていま す。待遇面でも、女性を気遣ってのさまざまな配 慮がありますが、"配慮"も行き過ぎると"排除" になる恐れがあることをわかっていただきたいと 思います。"ケア"偏重から"フェア"重視へ。

フラットに、平等に、無理なく、人として個人 が尊重される社会に転換していくことに期待して います。

5. おわりに

土木の魅力発信や担い手確保の一助になればと の思いから発足した NDJ ですが、担い手確保に つながる建設業の魅力発信については、まだまだ さまざまな活動や工夫が必要であると実感してい ます。

次世代を担う若い世代から選ばれる業界になる ためにも、また、建設業を選んで就職してくれた 人たちに長く仕事を継続してもらうためにも、性 別や年齢等に関係なく、多様な人材が活き活きと 活躍している姿を、まずは、今現在働いている私 たち一人一人が内外にアピールしていく必要があ ると感じています。